

平成28年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

校訓五綱領（剛健・質実・自重・自治・至誠）の精神と文武両道の教育方針の下、豊かな個性の伸張と人間性の尊重、陶冶に努めることにより、高い志をもち、国家・社会に貢献する気概に満ち、国際人として様々な分野で活躍するリーダーとなる人材を育成するため、特に次の能力を育むことをめざして全人格的な教育を行う。

- 高い知性、豊かな人間性、健やかな心身と強い意志をもって未来に生きる総合的な人間力
- 高い基礎学力と自学自習力を有し、自ら課題を発見し解決していく能力
- 自他を尊重し理解する能力に秀でるとともに、他者と協働する能力や自らの考えを世界に発信できるコミュニケーション能力

2 中期的目標

1 高い知性と確かな学力の育成

- (1) 「授業で勝負」。質の高い授業と生徒の積極的な授業参加により高い知性と確かな学力を育成する。アクティブラーニングの視点からの授業の改善充実を進めることで生徒の学習意欲を高める。授業中心の「予習→授業→復習」という毎日の学習サイクルを確立し、基礎学力の定着と自学自習力の向上を図る。あわせて基礎学力の定着が十分でない生徒に対するきめ細かい指導も行う。
- ア 生徒による授業評価、研究授業、相互の授業参観を行って授業の改善充実に努め、生徒の授業理解度及び授業満足度の向上を図る。
- イ 指名補習を定期的実施するとともに、「学習と生活のスタンダード」を活用して家庭での学習時間の確保を図る。また、自習室・図書館の利用を促進する。
- ウ 主体的・協働的に学ぶ姿勢を育成するための学習・指導方法等を充実させる。
- ※ 生徒による授業評価の「授業理解度」が、3学年平均で80%以上をめざす。
- (2) 「言葉」と「体験」をキーワードに多様な学習の機会を開設し、生徒の自ら学び、考え、判断し、行動する力を育成する。
- ア グローバルリーダーズハイスクール（GLHS）事業やスーパーサイエンスハイスクール（SSH）事業等を活用し、生徒の英語活用能力、課題発見能力、論理的思考力、分析力、プレゼンテーション能力などの向上を図る。
- イ 教科・科目の授業や探究活動においてICTを積極的に活用し、情報リテラシー（収集、選択、活用、編集、発信する能力）の向上を図る。
- ※ 4技能習得の基礎固め及び動機づけのため、第2学年の修了までに英検2級の取得をめざす。

2 高い志の育成と国公立大学への進学実績の向上

- (1) 3年間を見通した進路指導によって高い志と明確な目的意識を育成し、生徒の興味・適性・個性に応じた進路選択を支援する。また、生徒の進路希望を実現するため、授業・講習等により学力向上を図る。
- ア 進路HRを中心に計画的な指導と情報提供に努め、主体的な進路実現を支援する。
- イ 探究活動やSSH事業を通じて興味関心を深く掘り下げの中で進路を考える機会を増やす。
- ウ 1年次から高い目標をもたせ、京・阪・神大をはじめとする国公立大学を目標とする指導を充実する。
- エ 授業に加えて、必要に応じて、進路指導部が中心となって各学年で計画的な講習を実施し、学力の向上を図る。
- ※ 京・阪・神大をはじめとする国公立大学への進学率を、60%（現役・一浪で）以上をめざす。

3 豊かな人間関係を醸成する行事・部活動の振興と生徒指導の充実

- (1) 普通科・文理学科一体の学校行事と部活動、学校内外の体験活動を通じて豊かな人間関係と自主性、自律性を育て、リーダーシップを育成する。
- ア 生徒実行委員会による学校行事の運営を進める。
- イ 自主性を尊重した部活動の運営を推進するとともに、学習と部活動の両立を図る。
- ウ 文化系部活動振興の一環として、科学系部活動を統合する組織により、探究活動の深化・発展を図る。
- ※ 学習と部活動の両立ができていない生徒が、70%以上になることをめざす。
- (2) 全教職員による生徒指導によって規範意識やマナーの向上を図り、よりレベルの高い「規律ある進学校」をめざす。
- ア 挨拶、遅刻、規律ある服装・頭髪、交通ルールの遵守等の指導を充実する。
- ※ 遅刻数は1,500以下をめざす。
- (3) 体験を重視した人権教育を通じて人権感覚を育て、人権問題の解決に向けた態度の育成を図る。
- ア フィールドワークや当事者との交流の機会を充実する。
- (4) 配慮を要する生徒へのきめ細かい指導を行い、特に不登校の予防と不登校生徒へのケアに努める。
- ア 教育相談室を中心に、配慮を要する生徒の情報を迅速に収集して関係教職員が共有するとともに、スクールカウンセラーや専門機関との緊密な連携に努める。

4 研修・研究活動の充実

- (1) 教職員が相互に高めあう職場環境づくりを進める。また、学校を挙げて若い教職員を育てる体制づくりを進める。
- ア 教科会議で指導方法や指導内容、教材、評価等について研究する。
- イ 校内研修を充実し、校外研修の報告を徹底する。
- ウ 「育成プログラム」に沿って計画的な研修を実施する。

5 組織的な学校運営の推進

- (1) 首席・主任・部長を中心としたミドルアップ・ダウンを一層活性化するとともに、分掌主導の学校運営を推進し、学校の組織力向上を図る。
- ア 分掌・学年・教科・委員会等の会議を活性化するとともに、課題に応じて適宜、分掌・委員会主導のグループセッションを開催する。
- イ 分掌・委員会は「学校経営計画」の具体化にあたって、学年・教科に対して方針を提示するなどリーダーシップを発揮する。
- (2) 学校経営計画を踏まえた各組織目標のPDCA（マネジメント）サイクルを効果的に運用し、学校目標の高いレベルでの達成をめざす。
- ア 分掌・学年・教科・委員会は、それぞれの目標とその進捗状況及び達成状況を職員会議等に報告する。

6 開かれた学校づくりと広報活動の推進

- (1) 学校教育自己診断、学校協議会、学校評価、学校経営計画を有機的に関連させることで学校運営の改善を図る。
- ア 学校協議会からの意見や学校評価の結果を学校運営に生かすとともに、評価結果を広く公表する。
- (2) 学校運営について保護者・府民への説明責任を果たすためHP等の充実を図る。また、中学生・保護者等を対象とした広報活動を充実する。
- ア 保護者との連携を強化するとともに、学校見学会や各種説明会を開催する。

7 教育環境の整備と安全で安心な学校づくり

- (1) 教育の場にふさわしい環境の整備に努める。
- ア 環境整備の一環として、教室、廊下、職員室、準備室等の清掃の徹底に努める。
- イ 定期的な安全点検を実施して施設・設備の改善に努める。
- ウ 教育支援協議会等の支援も得て施設・設備の充実を努める。
- エ 教職員が働きやすい職場環境づくりに努める。
- (2) 防犯体制を強化し、「いのち」を大切にする教育と人権に配慮した生徒指導を一層推進する。
- ア 防犯・防災訓練を充実し、生徒・教職員の危機管理意識の向上を図る。
- イ 心肺蘇生法・熱中症予防等の講習、薬物乱用防止教育の充実を図る。
- ウ 携帯に関する指導を徹底するとともに、体罰・いじめ・セクハラが生じない学校運営と指導に努める。
- エ 個人情報の取扱に関する内規の周知徹底を図り、個人情報の管理を徹底する。

【学校教育自己診断における結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成28年12月実施分]	学校協議会からの意見
<p>12月に、生徒対象、保護者対象、教職員対象で実施</p> <p>[生徒対象 学校教育自己診断結果] 回収率98%</p> <p>(1) 学校に愛着持っている生徒が多い。3年生は80%が愛着あり。 (2) 全体の9割の生徒が学校行事は楽しいと答えている。 (3) 学年が下がるにつれ「家庭学習の量」が減少し、「生活リズムの調整」がうまくいっていない生徒の数が増える。1年生は勉強と部活動両立できているが49% (4) 授業満足度は全体で70%と高い。 (5) 尊敬できる先生がいるは3年生で80% (全体で71%) と高い。 (6) 学習・行事・部活動にバランスよく取り組んでいる生徒が多いと答えた生徒が全体の75%で多い。 (7) 「生き生きと元気に毎日を送っている生徒が多い」と答えた生徒が全体の81% (8) 8割以上の生徒が、「授業や小テストは計画的に行われている」と答えているが、「授業理解や家庭学習に役立つよう指導計画をもっと詳しく示して欲しい」と希望している生徒が69%あり高い学習要望が読み取れる。</p> <p>[保護者対象、学校教育自己診断結果] 回収率68%</p> <p>(1) 学習指導に満足しているは全学年で89% (2) 学校生活についての先生の指導に納得しているは全学年で83% (3) 生野高校に進学させてよかったは全学年で95% (4) 学年通信を読んでいるが62%、I n e w s +を読んでいるが50%なので、HP等も使うなど発信の仕方を考えなければならない。</p> <p>[教職員対象、学校教育自己診断結果] 回収率80%</p> <p>(1) 前年に比べて、否定回答率の増加した項目は少なく(17項目)、肯定回答率に増加した項目は多かった。(51項目) 全体的に大幅な向上がうかがえる。 (2) 肯定回答率の多かった項目「この学校は、生徒や保護者のニーズにあった特色がある。(96%)」「各教科において、基礎・基本を明確にし、教材の精選・工夫を行っている。(94%)」「生徒一人ひとりが興味・関心、適性に応じて進路選択ができるよう、きめ細かい情報提供を行っている。(92%)」 (3) 否定回答率の多かった項目「支援学校との交流機会を積極的に設けている。(否定率80%)」「指導内容について、他教科と話し合う機会がよくある。(否定率72%)」等については、今後の検討課題である。本年度も、1学期末には弁護士による「子どもの人権講演会」、冬には教員によるLGBT講演会を実施、熱心な質疑応答が行われたので継続してきたい。</p>	<p>年3回実施した。[第1回：7月1日、第2回：1月21日、第3回：2月22日]</p> <p>[第1回(7月1日) GLHS前年度報告 と 今年度計画]</p> <p>(1) センター試験5教科受験率、行事満足度、部活動入部率は目標達成 (2) 不登校生徒については、教育相談委員会、養護教諭、スクールカウンセラーが連絡組織を作り、組織として対応していく。 (3) GLHS (グローバルリーダーズハイスクール) 評価委員会の評価報告は「A」であり、「AAA」「AA」に次ぐ3番目の評価だった。 (4) 生徒の特徴は、「素朴・真面目・一生懸命」であり、本校生の特徴を活かしつつGLHSの中で存在感を發揮していく。 (5) GLHS評価報告の中でも、2年中盤まで学習時間等が下がり、2年後半から上向くという特徴がある。2年中盤までの落ち込みを早い時点で克服し、上昇トレンドへ早く切り替えることが課題。 (6) 教科書の採択についての説明あり→異論なく了承される。 (7) 保護者、生徒等の意見は12月の学校教育自己診断等で調査するとの説明</p> <p>[第2回(1月21日) 学校教育自己診断 及び 学校経営計画]</p> <p>(1) 学校経営計画のマネジメントシステムについて議論 ○協議委員より、教育委員会が作り上げたものでそれを踏襲することも重要だが、それぞれの部分・部分の達成率に注意が行き過ぎてしまうと、トータルとしての学校目標を逸失してしまう恐れあり、学校としてトータルで何をしたい(してきたか)が重要との指摘 ○校長より、「学校教育自己診断」指標も重要だが、卒業後10年後位に、「その学校を出て良かったと思うか？」等の診断指標も必要だと考えていると報告あり。(指標の集め方が難しいが。) (2) 生野高校はGLHSの中で、部活動にも力を入れており、団体競技(陸上)で全国3位の成果を上げている。GLHS評価指標に入らないかもしれないが、部活動に力を入れながら、勉強もさせるという姿勢を継続して欲しい。 (3) 英語教育については、SET (スーパーイングリッシュティーチャー) 配置が配置され4技能(読む。書く。聞く。話す。)を育てる教育が1年次から行われている。英検受験結果等の成果が出てきているので継続して維持して欲しい。</p> <p>[第3回(2月22日) 全体総括]</p> <p>(1) 富山県立富山中部高校が39年で建替え、福岡県立城南高校が42年で建替えが終了している。大阪府財政難も理解できるが47年目の校舎なので建替えも視野に入れて検討してほしい。 (2) 3年の授業満足度が1、2年に比べて低いのに、センター試験で結果を出している。授業満足度がただちに力をつけているとはならない。 (3) 学校協議員の年間総括は「学校への苦情は少ない。」「生徒が挨拶してくれるのが有難い。入試制度が変わり全府1学区となってきているが生野の良さは残して欲しい。」「生徒が元気に挨拶してくれるところが良い。外的環境が変わり難しい側面もあるが生野高校を思っで仕事をして欲しい。」であった。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標 () 内はH27実績	自己評価
1 高い知性と確かな学力の育成	<p>(1)アクティブラーニングの視点からの授業の充実改善と基礎学力の定着、自学自習力の育成</p> <p>ア 生徒による授業評価、研究授業、相互の授業参観の実施</p> <p>イ 指名補習の実施、「学習と生活のスタンダード」を活用した家庭学習の充実</p> <p>ウ 主体的・協働的に学ぶ姿勢の育成</p>	<p>(1)</p> <p>ア 6月と12月に生徒による授業評価を実施し、その結果をもとに教科で対策を協議する。 ・各教科で年間最低1回の研究授業を実施する。 ・全教員が年間最低2回の授業参観を行う。</p> <p>イ 1・2年生を対象に一定期間週1回程度の指名補習等を実施する(国・数・英) ・「学習と生活のスタンダード」を踏まえ、一人ひとりの生徒に学習計画を作成させ、限られた時間を無駄なく活用する生活を指導する。 ・定期的に学習時間等の実態調査を行い、家庭学習の時間等を把握する。</p> <p>ウ 主体的・協働的に学ぶ姿勢を育成するための学習・指導方法等を研究する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・授業評価における授業理解度 1年70%以上(73.6%) 2年80%以上(73.9%) 3年85%以上(85.8%) ・自己診断(生徒用)の「現在行われている授業に満足している」65%以上(63%)</p> <p>イ・補習を連続して受講する生徒25%以下(1年2.5%・2年1.1%) ・1・2年の平日の自学自習時間、1・2年とも前期90分以上、2年後期120分以上(1年66分・2年89分) ・平日の自学自習時間1時間未満の生徒の割合30%以下(1年37%・2年20%) ・自己診断(生徒用)の「家庭学習をしっかりと行っている」65%以上(62%)</p> <p>ウ・自己診断(生徒用)の「勉強して楽しい」1・2年60%以上(59%) ・自己診断(生徒用)の「特に印象に残っている授業がある」1・2年60%以上(51%)</p>	<p>(1)</p> <p>ア・授業評価における授業理解度(平均) 1年80.0%(◎) 2年80.7%(○) 3年82.1%(○) 3年は85%には達していないが、3学年平均で81.0%ある。(○)</p> <p>イ・補習を連続して受講する生徒25%以下(1年5.6%○、2年5.5%○) ・1・2年の平日の自学自習時間1・2年とも前期90分以上、2年後期120分以上(1年57.5分(△)・2年90.2分(△)) ・平日の自学自習時間1時間未満の生徒の割合30%以下(1年47%(△)・2年18.7%(○)) ・自己診断(生徒用)の「家庭学習をしっかりと行っている」65%以上(63%)(○)</p> <p>ウ・自己診断(生徒用)の「勉強して楽しい」1・2年60%以上(59.5%)(○) ・自己診断(生徒用)の「特に印象に残っている授業がある」1・2年60%以上(56.5%)(△)</p>
	<p>(2)自ら学び、考え、判断し、行動する力を育成</p> <p>ア GLHS事業やSSH事業の活用</p> <p>イ 情報リテラシーの向上</p>	<p>(2)</p> <p>ア 「探究」の校内発表会を実施し、校外発表会に参加する。その際、SSHの発表では、英語による発表を奨励し、海外科学研修で発表を行う。 ・SSH校外研修、海外語学研修、海外科学研修、イングリッシュキャンプ、TOEFL iBT チャレンジ講座等を実施する。 ・オーストラリア FCAC との相互交流の準備をする。 ・SET を配置し TOEFL iBT を扱った授業を実施する。 ・英検、漢検の受験を奨励する。</p> <p>イ 教科科目の授業及び「探究」においてICTを積極的に活用するとともに学校図書館利用を進める。</p>	<p>(2)</p> <p>ア 各事業の参加者の満足度80%以上 ・TOEFL iBT 指標 ・英語検定2級取得率50%以上(46.2%)</p> <p>イ 電子黒板の効果的な活用法の校内研修 ・1ヶ月2冊以上の読書(26%)</p>	<p>(2)</p> <p>ア 各事業の参加者満足度 SSH 探究Ⅱ成果発表会 97%(◎) 1年イングリッシュキャンプ 76%(△) オーストラリア語学研修 100%(◎) オーストラリアサイエンスツアー 100%(◎) ・TOEFL iBT77点 1名 ・英語検定2級取得率50%以上 2年2級取得率 45%(△) 1年準2級取得 88.4%(○)</p> <p>イ 電子黒板の使用者数 18名 ・1か月2冊以上読書の割合(貸出冊数)図書館貸出冊数によると昨年比91%(△) 読書電子化進み図書貸出し数では読書率不明</p>

<p>2</p> <p>高い志の育成と国公立大学への進学実績の向上</p>	<p>(1)高い志と明確な目的意識の育成、計画的な講習による進路希望の実現</p> <p>ア 計画的な指導と情報提供による主体的な進路実現の支援</p> <p>イ 探究活動やSSH事業による興味関心の深化</p> <p>ウ 京・阪・神大をはじめとする国公立大学を目標とする指導</p> <p>エ 進路指導部を中心に各学年で計画的な講習を実施</p>	<p>ア 分掌と学年が連携して進路HR、一日総合大学、大学見学会等を実施する。また、社会の第一線で活躍する先輩等の講演会を実施する。</p> <p>イ 生徒の興味関心に応じたテーマの設定、放課後の活動をサポートする。</p> <p>ウ 高い目標を持ち最後まで諦めない指導を継続する。</p> <p>・センター試験対策を充実する（授業の改善充実と3年講習を5教科で実施）</p> <p>エ 3年は平日と土曜日、長期休業に実施し、1・2年は長期休業を中心に実施する。</p>	<p>ア 講演会、見学会等参加者の満足度80%以上</p> <p>イ 探究活動やSSH事業の活動を通して進路について考える機会が増えた割合70%以上(42%)</p> <p>ウ センター試験5教科受験者80%以上(86.4%)</p> <p>・国公立大学進学率(現役・一浪で)60%以上(52%)</p> <p>エ 3年平常時15講座以上</p> <p>1・2年は国・数・英3教科</p>	<p>ア 講演会、見学会等参加者の満足度</p> <p>・2年一日総合大学 96.6% (◎)</p> <p>・京大キャンパスガイド 100% (◎)</p> <p>・阪大ツアー</p> <p>イ 探究活動やSSH事業の活動を通して進路について考える機会が増えた割合70%</p> <p>・探究I選択者 77%</p> <p>・探究II選択者 82%</p> <p>ウ センター試験5教科受験者77.8% (○)</p> <p>・国公立大学進学率(現役・一浪)182名(H29年3月28日段階)で51%</p> <p>エ 3年平常時 19講座実施 (○)</p> <p>1・2年は国・数・英3教科で実施</p>
<p>3</p> <p>豊かな人間関係を醸成する行事・部活動の振興と生徒指導の充実</p>	<p>(1)豊かな人間関係と自主性・自律性・リーダーシップの育成</p> <p>ア 生徒実行委員会による学校行事運営</p> <p>イ 自主性を尊重した部活動の推進、学習と部活動の両立</p> <p>ウ 科学系部活動のさらなる活性化</p> <p>(2)「規律ある進学校」の実現</p> <p>ア 規範意識・マナーの向上</p> <p>(3)人権教育の充実</p> <p>ア 体験重視の人権教育</p> <p>(4)配慮を要する生徒へのきめ細かな指導</p> <p>ア 情報の迅速な把握と共有化、関係機関との連携</p>	<p>(1)</p> <p>ア 体育祭、文化祭、合唱コンクール等の行事を極力生徒自身に企画・運営させる。</p> <p>・リーダー講習会を実施する。</p> <p>・他校執行部との交流、ボランティア活動など、学校外への働きかけを意欲的に行う。</p> <p>イ 顧問の指導の下、生徒自身に活動のあり方を考えさせることにより、自主性と自律性の向上をめざす。</p> <p>・「生活のスタンダード」を踏まえ、学習と部活動の両立を図る。</p> <p>ウ 既存の部と同好会を束ねる「科学系クラブ連合」により探究活動の深化・発展を図る。</p> <p>(2)</p> <p>ア 全教員による挨拶、遅刻、規律ある服装・頭髪、交通ルール遵守等の指導の充実</p> <p>・生徒の地域活動(清掃活動等)を推進する。</p> <p>(3)</p> <p>ア フィールドワーク、当事者との交流機会の充実</p> <p>(4)</p> <p>ア 年3回の欠席調査や学年会議等で情報を把握、ケース会議を随時開催して情報の共有化を図り、指導方法を検討する。</p> <p>・保護者の協力を得て、スクールカウンセラー、府立高等学校適応指導教室や専門機関と緊密に連携して指導にあたる。</p> <p>・教育相談室の整備を図る。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 各行事の満足度・達成度85%以上</p> <p>イ 部活動に対する満足度80%以上(83%)</p> <p>・自己診断(生徒用)の「学習と部活動の両立ができている」60%以上(56%)</p> <p>ウ 科学系部活動参加者による発表</p> <p>(2)</p> <p>ア 遅刻数を1,500回以下(1198回)</p> <p>(3)</p> <p>ア 事後のアンケート調査での肯定的評価70%以上</p> <p>(4)</p> <p>ア 30日以上の欠席者のうち欠席理由が不登校による者の数を前年度並みにする(3名)</p>	<p>(1)</p> <p>ア 各行事の満足度85%以上</p> <p>・体育祭肯定度 96% (◎)</p> <p>・文化祭肯定度 97.4% (◎)</p> <p>・合唱コンクール 95% (◎)</p> <p>・修学旅行 99% (◎)</p> <p>イ 部活動に対する満足度80%以上 80% (○)</p> <p>・自己診断(生徒用)の「学習と部活動が両立できている」56% (△)</p> <p>ウ 科学系部活動参加者による発表</p> <p>・サイエンスフェスタ理科奨励賞(生物研究部)</p> <p>・日本数学コンテスト論文賞銀賞(数学研究部)</p> <p>(2)</p> <p>ア 遅刻数を1,500回以下</p> <p>・1661回(昨年比+463) (△)</p> <p>(3)</p> <p>ア フィールドワークの事後アンケート調査で肯定的評価70%以上</p> <p>・1年リパティおおさかフィールドワーク 85%</p> <p>・1年人権講演会 94.3%</p> <p>・2年人権講演会 92.8%</p> <p>(4)</p> <p>ア 30日以上の欠席者のうち欠席理由が不登校による者の数を前年度並みに以下にする。(4名) (△)</p>